

校訓	真善美	令和6年度 学校だより	発行日	令和7年1月17日
教育目標	自ら考え、行動し、 未来を創造できる生徒の育成 感謝する心、確かな学力、健やかな心を育てる	「荒中だより」 1月 睦月 January 第27号	発行者	伊丹市立荒牧中学校 校長 山崎 佳恵

【 防災訓練 1. 17に考える 】

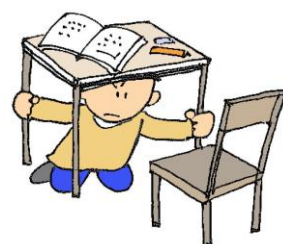
1月15日で、松の内が明けました。今週末1月20日には「大寒」を迎え、1年で最も寒さが厳しい時期となります。インフルエンザが流行っていますので、手洗い、うがい、換気、消毒、マスクの着用、規則正しい生活、ビタミンCの摂取など体調管理には十分に気をつけてください。

今日は、阪神淡路大震災から30年が経ち、その教訓をもとに避難訓練を行いました。14年前には、東日本大震災。昨年元日に起きた、能登半島地震。震災により、犠牲になられた方々にお悔やみ申し上げますと共に、被災された全ての方々に心よりお見舞い申し上げ、1日も早い復興を祈るばかりです。

昨日から阪神間各地では、阪神淡路大震災の追悼集会が開催されています。震災を風化させず、世代を越えて思いを共有し、伝えていくことが大事だと思います。

30年前の1月17日午前5時46分。国内初の最大震度7を記録した、阪神淡路大震災が発生しました。淡路島北部を震源とした巨大地震は、淡路島、神戸市を中心とする一帯に大きな被害をおよぼし、住宅の密集する地域では、大規模な倒壊に加え、火災が発生し、ライフラインも寸断され、全く機能しなくなりました。**6,434名の命が失われ、68万棟以上の建物が倒壊や火災の被害にあい日常を失う、**という戦後の日本が初めて経験した都市型の大災害となりました。この伊丹市でも、死者23名、負傷者2,716名、全壊世帯2,432世帯、半壊世帯14,360世帯の被害に加え、阪急伊丹駅の倒壊、新幹線高架橋の落下、指定文化財の被害が発生しました。

地震などの自然災害はいつ起こるかわかりません。避難の心構えとして大事なことは、**『自助』自分の命は、自分で守ることと、地域で助け合う『共助』**です。「命を守る」判断ができるのは「自分」です。災害時には災害に繋がる情報や身の回りの状況を確認して、



ひとり一人が状況判断しながら、**自分で気づき、考え、行動することが大切**です。

災害時の被害を最小限に抑えるための防災や減災活動は、ひとり一人の『自助』の積み重ねがあってこそ、成り立つのです。この機会に、日頃から自分の命の守り方を考えてみましょう。

【命を守る3つのポイント】

1. 家具などの転倒防止対策

阪神淡路大震災では、死者の8割以上が、家屋の倒壊や家具などの転倒による圧迫死でした。家具の固定や寝る場所について考えてみましょう。



2. 避難場所や連絡方法を家族で話し合う

日頃から、自宅や職場近くの避難所、避難経路、緊急時の連絡方法などを家族で話し合っ、確認しておきましょう。



3. 3日分の水と食糧の持ち出し準備

最低3日分の水と食糧をストックしておきましょう。

【生かされている自分の命について考える】

『心』は誰にも見えないけれど、『こころづかい』は見える。

『思い』は見えないけれど、『思いやり』は誰にでも見える。

その気持ちをカタチに。

東日本大震災直後、ほとんど毎日、テレビでACジャパンのCMで流れていたもので、詩人の作詞家 宮澤章二さんが作った「行為の意味」という詩の一節です。この言葉の意味、重みを感じ考えてみてください。被害に遭われ、大変な悲しみを抱え、厳しい避難所生活を強いられている多くの皆さんへの「思い」を、私たち一人ひとりがしっかりと胸に刻むとともに、その「思い」をしっかりと形（行動）に表していくことが大切なのだとということを教えてくれています。

私たちに何ができるのでしょうか。何をすべきなのでしょう。

自分にできることから、積極的に取り組みたいものです。

さあ、何から始めましょう？

